

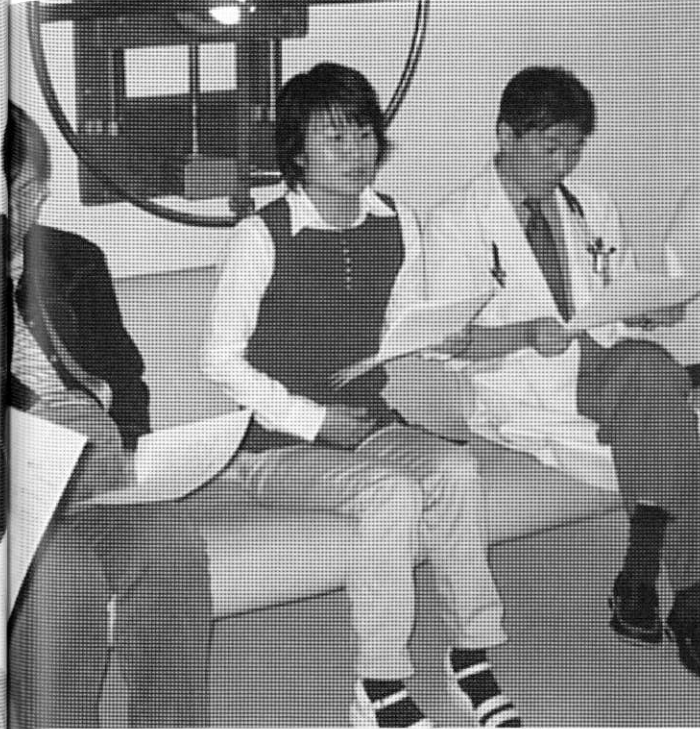
七月から月一回の「ホスピス勉強会」を院内で開催

垣根を越え交流を図りながら 互いのレベルアップを目指す

医療法人敬仁会函館おしま病院理事長・院長

福德 雅章

ふくしくまごあき 昭和三十六年函館市生まれ。金沢医科大学卒業後、同大学血液免疫内科助手や同大学血液センターの副部長を兼任。平成十年には栄光病院(福岡県)の緩和ケア病棟に勤務。平成十四年一月から函館おしま病院(旧渡島病院)に勤務。二月より同病院の理事長・院長に就任。



9月に開催された第3回ホスピス勉強会。写真中央は「家族へのケア」というタイトルで講師を勤めた鶴田看護師。鶴田さんはホスピスの現場で7年間の経験を持つ。

七月二十五日から勉強会を始め
ています。当初はホスピス開設に
向けて、当院のスタッフだけで進
めていこうと思っていたのですが、
これからホスピスを本格的に運営
していくにあたっては、他の医療
機関、訪問看護ステーション、各
施設など色々な部門との関わりや
地域の方たちの理解が不可欠で
すし、さらにボランティアの育成に
も力を注がなくてはなりません。
現に、今でもホスピス相談を受
けたり、他の医療機関や訪問看護
ステーションから末期がんの方の
入院や訪問診療の依頼を受けるこ
とも多いです。スタッフ同士の
連携とお互いのレベルアップも必
要となってきます。

前にも申し上げましたように、
この勉強会では色々な方が垣根を
越えて、互いに交流を図りながら、
それぞれがうまくこの場を活用し
ていただければ嬉しいですし、そ
のことは結果として患者さまのお
役に立てるのではないかと思います。

◆第一回目「ホスピススタッフに 求められるもの」担当・福德

まず、初回ということ、ホス
ピスに携わる者、或いはもつと突
き詰めて、医療に関わる者として
持つべき姿勢、ということと話
してみました。

ホスピスが医の原点であるとい
うことの一つに、病める方たちを
「治してやる」という姿勢ではなく、
全人的に「支える」という医療者
側の姿勢が言われています。

この勉強会では、まず、ホスピ
スの特徴の一つである「全人的ケ
ア」とはどういうことなのかを考
えてみました。そして、スタッフ
に求められるものとして、「寄り
添う姿勢」、「もてなしの心」、
「気づきと感性」、「コミュニケ
ーションスキル」、「セルフコン
トロール」などを挙げました。死
を前にした方と対峙するというこ
とはスタッフにとって大変難しく、

